網走水試ミニレター

No.26　2014. 5. 9

ゴールデンウィークも終わり、網走では5月7日に桜の開花が発表されました。今年は平年より4日早く、春先の低温と日照不足により1953年の統計開始以降で最も遅かった昨年に比べると18日も早い開花となりました。3月下旬から始まったオホーツク管内のけがにかご漁業も、海明け後も4月遅くまで沿岸に居座った流氷の影響で出漁日数には地区により大きな差がみられるものの、4月下旬までの漁獲状況は管内全体でみると量・金額とも昨年同時期の約150%（オホーツク総合振興局による集計）となっており、好調さが伺えます。

さて、網走水試では今年の「オホーツク総合振興局管内けがに漁場一斉調査結果」と初夏から秋にかけて主に刺し網や定置網で漁獲される「マガレイの漁況予報」を発表しましたので、今回はその概要についてお知らせします。

▲「けがに漁場一斉調査」は、漁期前半のけがにかご漁業の状況をモニタリングするため、昭和60年から毎年一回、4月下旬に管内毛がに漁業対策協議会、各漁協けがにかご部会、オホーツク総合振興局水産課と共同で実施しています。今年の調査は4月14～24日に行いました。その調査結果では、漁獲対象である甲長8cm以上の雄ガニのCPUE（一隻100かご当たりの漁獲尾数）は293尾と昨年（367尾）よりやや減少していましたが、平年値（310尾）と同程度であり、平成23年（141尾）、24年（115尾）よりはかなり高い値でした。また、堅ガニの割合及びCPUEもそれぞれ66%及び194尾であり、昨年（37%及び135尾）より高い値でした。一方、甲長8cm以上の雄ガニのサイズ組成は、平成23年からの傾向と同様に、銘柄「小（甲長8cm以上、9cm未満）」の割合が70%以上と高い比率でした。これらのことから、今年度の漁期前半（5月下旬～6月上旬頃まで）は、銘柄「小」の堅ガニが主体の漁獲が続くと思われます。

▲次に「マガレイの漁況予報」についてですが、道北日本海からオホーツク海で漁獲されるマガレイの多くは、主な産卵場である日本海から、卵～仔魚期に宗谷暖流などによりオホーツク海へ輸送され、成熟するまでオホーツク海で過ごします。網走水試では毎年夏に雄武沿岸で小型桁網を使って幼魚調査を行い、採集した1歳魚の単位面積あたりの尾数を基に、各年級群の「加入量指数」を算出しています。この「加入量指数」が高い年級群は漁獲対象年齢（主に2～5歳）に達するとオホーツク海から道北日本海の海域全体で多く漁獲されることがわかっていますので、毎年の漁況は漁獲対象となる年級群の「加入量指数」と前年度までの漁獲の状況（漁獲量や漁獲物の年齢組成等）などにより予測しています。今年のオホーツク海の夏漁（5～8月）は、3歳魚（2011年級群）主体で漁獲量は昨年に比べ「増加」、秋漁（9～12月）は、3・4歳魚（2011、2010年級群）が主体で、2歳魚（2012年級群）も漁獲対象に加入し、漁獲量は「若干増加か横ばい」の予測となっています。

▲これら「けがに漁場一斉調査結果」や「マガレイの漁況予報」は、網走水試HPに掲載しておりますので、詳細は下記のURLをご覧下さい。

http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/abashiri/section/zoushoku/index.html

（網走水試　野俣）